



一般社団法人 亀岡青年会議所 2020年度スローガン

想いを紡ぎ未来を形に

~Always be a challenger!~

かめおか新世紀ビジョン2020

「世界に誇る環境先進都市(エコジョックミュージアムかめおか)」の創造



目次

~事業報告~ 4月WEB例会 5月WEB例会 「ふるさと納税からみる地域の魅力」	1
~事業報告~ 第4回理事会・第5回理事会 京都ブロック協議会 広報戦略アップデートセミナー	2
~事業報告・事業告知~ 出向者報告(高杉清明君) 事業告知 新入会員紹介(荒木一博君)	3
作慶生 (香川賢人副委員長の巻) 仙人掌	4

4月WEB例会



COVID-19



四月十一日(土)十一時〜十二時十五分にて、Zoomを活用した初の試みとなる四月WEB例会を開催しました。

四月例会は本来であれば亀岡青年会議所の、創立四十周年記念式典・祝賀会が開催される予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為に延期となり、セレモニー例会を行い、事業では二〇三〇年に向けた新中長期ビジョン策定に当たつての現状報告やメンバー一人ひとりの意見などを吸い上げるためのグループディスカッションを行い、より良いビジョン作成に当たつての意見交換の場となりました。

セレモニー例会では、楠理事長より開会宣言後、挨拶をいただき、近畿地区協議会西田新会長からはビデオメッセージにて、近畿地区協議会が新型コロナウイルス対策として取り組んでいる、日本赤十字社と連携を取つての献血支援や、近畿各地ブロック協議会が行つた医療従事者や行政へのマスクや消毒液の寄付、そして地元飲食店の支援などの事例を話していただき、京都ブロック協議会榎田啓会長にはWEB参加していただき、スピード感を持って市民の為に何ができるかを考えることが必要ですと、会長二人からは大変忙しい時間を割いていただけただけに感謝申し上げ、事業のディスカッションに繋げることができました。

そして、先ずは今何ができるかを検討し、亀岡JCはフェイスブックやインスタグラムで「かめおかテイクアウトトリレー」として、亀岡の飲食店さんのテイクアウトを毎日紹介させて頂きました。また、各店舗さんが「プラごみゼロ」キャンペーンにも積極的に参加され、コロナ対策と環境配慮への融合に挑戦されていると実感しました。

四月十一日(土)十一時〜十二時十五分にて、Zoomを活用した初の試みとなる四月WEB例会を開催しました。

四月例会は本来であれば亀岡青年会議所の、創立四十周年記念式典・祝賀会が開催される予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為に延期となり、セレモニー例会を行い、事業では二〇三〇年に向けた新中長期ビジョン策定に当たつての現状報告やメンバー一人ひとりの意見などを吸い上げるためのグループディスカッションを行い、より良いビジョン作成に当たつての意見交換の場となりました。

セレモニー例会では、楠理事長より開会宣言後、挨拶をいただき、近畿地区協議会西田新会長からはビデオメッセージにて、近畿地区協議会が新型コロナウイルス対策として取り組んでいる、日本赤十字社と連携を取つての献血支援や、近畿各地ブロック協議会が行つた医療従事者や行政へのマスクや消毒液の寄付、そして地元飲食店の支援などの事例を話していただき、京都ブロック協議会榎田啓会長にはWEB参加していただき、スピード感を持って市民の為に何ができるかを考えることが必要ですと、会長二人からは大変忙しい時間を割いていただけただけに感謝申し上げ、事業のディスカッションに繋げることができました。

そして、先ずは今何ができるかを検討し、亀岡JCはフェイスブックやインスタグラムで「かめおかテイクアウトトリレー」として、亀岡の飲食店さんのテイクアウトを毎日紹介させて頂きました。また、各店舗さんが「プラごみゼロ」キャンペーンにも積極的に参加され、コロナ対策と環境配慮への融合に挑戦されていると実感しました。

5月WEB例会「ふるさと納税からみる地域の魅力」



五月十七日(日)、まだ新型コロナウイルスが収束をみせない中、自粛期間ということもあり、四月例会に引き続き五月例会もWEB例会にて開催を致しました。WEB例会ではありますが今シーズン初のクールビズをドレスコードとして季節の移ろいを感じる事ができ、皆がプロトコルをしっかりと守り、メリハリのある装いにて気を引き締めさせていただきました。

五月例会は「ふるさと納税からみる地域の魅力」をテーマに亀岡市役所ふるさと創生課ふるさと推進係長の三宅晃圓様よりご講演いただき、ふるさと納税制度の説明から、ふるさと納税の全国的状況や亀岡市の状況、また返礼品の状況、そして今後の課題などをポイントにあげながら、ふるさと納税の意義や亀岡の魅力という地域ブランドを生かした事業のお話をいただくことができました。今回、お話をいただく中々気づきえない京野菜の魅力の再認識や京都府下で一番の寄付額・件数、右肩上がりの寄付額であること、更には京野菜と高級料亭のコラボ商品、京都丹波二市一町の共同企画などの取り組みを知ることができ、メンバー全員が地域の魅力とは何かを考える一助になり、メンバーも積極的にふるさと納税制度を活用していければと思います。

五月十七日(日)、まだ新型コロナウイルスが収束をみせない中、自粛期間ということもあり、四月例会に引き続き五月例会もWEB例会にて開催を致しました。WEB例会ではありますが今シーズン初のクールビズをドレスコードとして季節の移ろいを感じる事ができ、皆がプロトコルをしっかりと守り、メリハリのある装いにて気を引き締めさせていただきました。

五月例会は「ふるさと納税からみる地域の魅力」をテーマに亀岡市役所ふるさと創生課ふるさと推進係長の三宅晃圓様よりご講演いただき、ふるさと納税制度の説明から、ふるさと納税の全国的状況や亀岡市の状況、また返礼品の状況、そして今後の課題などをポイントにあげながら、ふるさと納税の意義や亀岡の魅力という地域ブランドを生かした事業のお話をいただくことができました。今回、お話をいただく中々気づきえない京野菜の魅力の再認識や京都府下で一番の寄付額・件数、右肩上がりの寄付額であること、更には京野菜と高級料亭のコラボ商品、京都丹波二市一町の共同企画などの取り組みを知ることができ、メンバー全員が地域の魅力とは何かを考える一助になり、メンバーも積極的にふるさと納税制度を活用していければと思います。

五月十七日(日)、まだ新型コロナウイルスが収束をみせない中、自粛期間ということもあり、四月例会に引き続き五月例会もWEB例会にて開催を致しました。WEB例会ではありますが今シーズン初のクールビズをドレスコードとして季節の移ろいを感じる事ができ、皆がプロトコルをしっかりと守り、メリハリのある装いにて気を引き締めさせていただきました。

五月例会は「ふるさと納税からみる地域の魅力」をテーマに亀岡市役所ふるさと創生課ふるさと推進係長の三宅晃圓様よりご講演いただき、ふるさと納税制度の説明から、ふるさと納税の全国的状況や亀岡市の状況、また返礼品の状況、そして今後の課題などをポイントにあげながら、ふるさと納税の意義や亀岡の魅力という地域ブランドを生かした事業のお話をいただくことができました。今回、お話をいただく中々気づきえない京野菜の魅力の再認識や京都府下で一番の寄付額・件数、右肩上がりの寄付額であること、更には京野菜と高級料亭のコラボ商品、京都丹波二市一町の共同企画などの取り組みを知ることができ、メンバー全員が地域の魅力とは何かを考える一助になり、メンバーも積極的にふるさと納税制度を活用していければと思います。

事業報告

第四回理事会

四月三日(金) 第四回理事会が行われ、今回は新型コロナウイルス感染拡大を懸念して初めての試みである、Zoomアプリを活用したWEB理事会の開催となりました。理事メンバーは近畿地区協議会、京都ブロックに出席している為にZoomの使い方は把握しており、また事務局でも事前に確認作業をしていたので、スムーズに理事会を進行することができました。

しかしながら、今回の理事会は新型コロナウイルスに伴い、当初計画していた事業からの再構築に迫られながらの議題となり、各委員長は再構築での上程となりましたが、報告事項として四例会会(セレモニー例会)に関する件については、事業を変更しビジョン策定をメインとする議案となり承認をいただき、五例会会に於いても次回までに再構築された議案を上程することとなりました。また、対内紙にのうみ発行に関しても承認をいただき定時発送する運びとなりました。

審議事項では、亀岡JCに二名の新入会員承認、委員会配属承認をえ、新たに仲間を迎えることができました。二月例会報告議案では資料等の不備があり取下げになり、再度上程することとなりました。新中長期ビジョンでは二〇三〇に向けての策定の進捗状況について、更に検証をしたデータなどが欲しいと意見をいただくこととなり、もう暫くは策定作業が必要となります。

協議事項の六月例会については、田村委員長にとって厳しい意見が出るなど、頭を悩ます大変な上程になりました。

第五回理事会

五月八日(金) 第五回理事会が行われました。緊急事態宣言が発令されているため、前回に引き続きZoomアプリを活用してのWEB理事会の開催となりました。

報告事項として、現在メンバーが集まらない状況であるために、それぞれの活動を発信できるように現役会員の非公開設定のページ開設をしてSNSツールを作成することになり、早速運用することとなりました。五例会議案では初めての試みであるWEB講演例会を開催する事となり、講師の方と入念に打ち合わせをしていただき、当日のしつらえの確認が行われ承認となりました。七例会会(セレモニー例会)は近畿地区大会和歌山大会の開催に関する案内がまだ来ていないという事でしたが、延期にて縮小開催が決定していると言う事で、七例会会(セレモニー例会)は次回までに再構築した議案上程ということになりました。

審議事項の二月例会報告議案では、前回同様議案の書き方に不備があり、取り下げとなり再度上程することとなりました。六例会会においても、新型コロナウイルス感染拡大の収束が見えない中での議案作成となっている為に、事業の背景、目的からどの様な結果を構築するのか大変思案されている事が伺える、今回も厳しい意見が出る上程となりました。

協議事項では八月例会(臨時総会)議案が上程され、臨時総会と共に八月例会で組織改革はどの様な事をされるのかなど、更に詳細な資料の添付をして下さいと意見が出て対応することとなりました。



京都ブロック協議会 広報戦略アップデートセミナー

京都ブロック協議会の本年度初事業となった広報戦略セミナーが四月二十五日、五月二日、九日と三回、各一時間のWEBセミナーとして開催されました。

セミナーの内容としては、一日目に講師の田尻有賀里様をお迎えしました。田尻様は今までに数多くの企業での広報を担当されており、実際の経験などをと「トレンドから見える求められる広報の本質と可能性」について講演いただきました。

二日目には大江祐介様より「広報にビジョンを！スドリーされない広報戦略」についてご講演頂きました。大江様は広報をメインに企業のコンサルタント業務をされており非常に分かりやすくご説明頂き、一回目、二回目共にJCでの活用はもろろん参加者の事業所などにおいても非常に活用性のあるセミナーとなりました。

三日目においては、府内各青年会議所の前年度の事業を取り上げ、事業の参加者動員数や当時の広報資料をもとに田尻様、大江様から指摘や提案を頂きました。事例検証は非常に分かりやすく、残念ながら時間の都合上で検証できなかったLOMは悔やんでおられました。

当初は四月二十五日にまとめて開催される予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止や事業直前の緊急事態宣言の発令により急遽変更となり開催されました。中止などの声も上がっていたようですが、事業を終えた関係本委員長は「榎田会長を始め府内各LOMの理事長や多くの方が迅速に対応や協議をして頂いた事により無事開催することができた」と話しておられました。JCムーブメント創造委員会には亀岡JCから関本副理事長が委員長として出向され、他にも多くの亀岡JCメンバーが委員として出向しています。



出向者報告

京都ブロック協議会 新時代のリーダー育成委員会

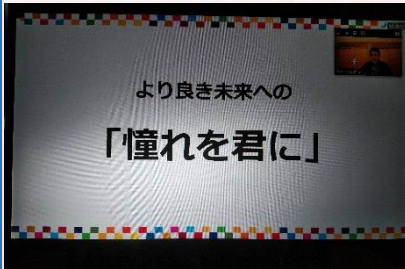
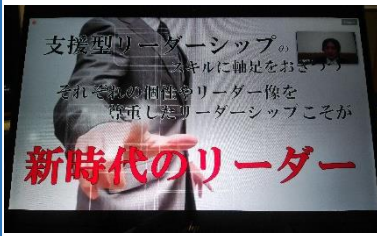
京都ブロック協議会新時代のリーダー育成委員会に出向しております高杉清明です。初出向になり右も左もわかりませんが、種清喜之委員長のリーダーシップのもと、微力ながら事業構築を担わせて頂いております。早速ですが、四月に事業がありましたので報告をさせていただきます。

四月七日(火)京都ブロック協議会新時代のリーダー育成委員会事業がWEBにて開催されました。新型コロナウイルス感染拡大に伴い、急遽WEB開催に変更になりましたが、WEB上でも滞りなくできるよう、開催前にも委員会を行い事前準備をしっかりと行いました。WEB開催と言うこともあり、いかにしてコンパクトにコンテンツをメンバーに伝えることができるかと色々考え、事業に繋げることができたのではないかと思っております。

第一部は「新時代のリーダーセミナー」として、なぜ新時代のリーダー像が求められるのかをリーダーシップの変遷の話から、支援型リーダーシップのスキルと有能性について具体例を挙げ、また企業例を挙げ、その後京都ブロック協議会榎田啓会長から「新時代のリーダーについて」をテーマに講演をいただきました。

第二部のグループワークでは、「支援型リーダーシップについて」、「トップダウン型リーダーシップについて」、「新時代に求められるリーダーシップについて」の三つのテーマで話し合いを行っていただき、最後に各グループで出た多くの意見を委員会メンバーのファシリテーターが確認し、発表し共有する場となりました。

新型コロナウイルスにより各事業がままならないですが、皆様にとって楽しい事業構築が出来るように委員会メンバーと頑張っていきます。



事業告知

【創立40周年記念式典のお知らせ】

当初、4月11日(土)に開催予定をしておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大を懸念して延期をさせていただき、情勢を踏まえながら開催について検討して参りました結果、下記の日程で開催させていただく運びとなりましたので、ご案内申し上げます。ご理解の程よろしくお願いたします。

開催日: 2020年10月11日 日曜日

※時間や会場などにつきましては、決まりましたらお知らせ致しますのでよろしくお願い致します。

- 6月5日(金) 第6回理事会
第6回実行委員会
- 11日(木) 6月例会(WEB例会)
- 19日(金) 第6回正副役員会議
- 7月3日(土) 第7回理事会
第7回実行委員会
- 11日(木) 7月例会
- 17日(金) 第7回正副役員会議
- 8月7日(日) 第8回理事会

新入会員紹介



二月二十三日、会員選衝委員会にて新たに二名の仲間を迎えることができました。

前回に引き続き今回は渡邊東高直前理事長のご紹介により入会いただいた方のご紹介をさせていただきます。

- ① 会員番号 四四二番
- ② 氏名 荒木 一博君
- ③ 生年月日 一九八一年三月三十日
- ④ 勤務先 (株)長崎堂
- ⑤ 業種 菓子製造・販売
- ⑥ 趣味 写真・ドライブ
- ⑦ 皆様へ一言 大変な時期ですが皆様とアクティブに活動できる日を楽しみにしております。配属は総務広報戦略委員となりますので、よろしくお願いたします。

生産者～ふあみりいーダイアリー～

今号、インタビューをさせていただいたのは、香川賢人君です。男気溢れる曲がったことが嫌いな、亀岡J.Cの将来を担う有望なメンバーになります。初めに、従業員の岩城さんに、香川君のこと仕事のことをお聞きしていきたいと思えます。お願いいたします。

○会社や従業員さん、また、新型コロナウイルスの対策や対応について聞かせて下さい。

岩城 株式会社京八(きやうや)は五年目になり、従業員四名・パート二名でネギやゴマを生産しています。ネギは手を掛けた分、それなりの物ができるので愛情を注いで生産を行い、地域住民からは地域を担っている存在だと信頼をいただいています。新型コロナウイルスの影響は勿論ありましたが、新規開拓する努力をし、結果新たなお客様が京八のネギを食べて下さっていますので、しっかりと企業努力を行い対応することができたと思えます。また、香川興業では遊具を作るなど多角経営をしています。

○J.Cに入会されて社長の成長を感じる所や、会社と仕事の両立をどのようにされているように見えるか教えてください。

岩城 ワンマン経営に見えるかもしれませんが、報・連・相をしっかりとられ、先を見据えた話をされ、両立が出来ていると実感しますし、入会されてからは交流関係にも広がりを見せ、様々な思考を吸収して、決断力もアップしてシェアも広がっている様に感じられます。毎朝八時に、京八と香川興業と一緒に朝礼を必ず行い、チームワークを大切に、美化(会社の清掃)も全員が順番に行うようになったこともJ.C入会の賜物だと思います。

○岩城さんから見てのJ.C評はいかがでしょう。

岩城 入会前から相談を受け従業員と話し合い、理解して送り出してフォローをしっかりとっている中で、社長に刺激を与えてくれている組織だと感じています。

○香川君の家族のことを教えてください。また、J.Cで組織改革が必要だと思うところはありますか。

香川 妻・子ども二人の四大家族です。組織改革のケジメとして、無駄なことはしない、ダラダラしない、活動には意味を持たせて、時間を大切にしないと会員拡大にも繋がらないと思えます。

○岩城さん、従業員さんに一言いただけますか。

香川 いつもありがとうございます！これからもよろしく！自分にはできないことをやって欲しいし、将来は管理や教える立場になって下さい。

○岩城さんから社長に一言いただけますか。

岩城 社長らしく思ったことを突き進んで、しっかりと筋を通して頑張ってください。従業員皆でフォローして会社を支えていきます。

○亀岡青年会議所メンバーに一言お願いします。

岩城 影響力のある組織として、リーダーとして支えていって貰って、地域にとって良い組織であって下さい。



仙人掌

寄稿にあたり、世界的な猛威を振るう新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に罹患された方々には、謹んでお見舞い申し上げますとともに、一日も早いご快復を心よりお祈り申し上げます。

また、治療やウイルス拡散防止に尽力されている皆様、とりわけ医療・福祉の最前線で働かれている方、国民のライフラインを担う業務に従事されている方には、心から感謝と敬意を表します。

さて、この原稿を作成している今、感染者数の微減や新薬の承認などを耳にしつつも、多くの国民はコロナ収束の糸口を見つけれない混沌の中を右往左往するばかりに思える。

報道では、不用意な発言や奇天烈な政策を高める政治家と、批判ばかりで打開策や対案を論じない政治家が、机上の空論を重ねる官僚の掌で泳がされているように見受けられ、真摯に国民の安全や経済の安定を図っていると思いにくいことばかりが伝わってくる。

そんな中、きらりと光る地方自治のリーダーたち。迅速に議論を重ね、官民連携の柔軟かつ毅然とした対応を発信する地方自治のリーダーには、待望のアフターコロナ(コロナ収束後)の日本を正しく導いてくれるのではという期待すら国民に生まれている。これまで国政は地方自治に優越し、ルールや権限を中央に集約したうえで地域に再配分する社会を築いてきたが、歴史に例えるならコロナと言う黒船がこれを覆し、統治機構を大きく変えてしまう気がしてならない。明治以来の中央集権体質から脱却した地域主権へ転換が加速し、国と地域自治が対等に議論する時代がやってくると思える。

その時、責任感と情熱をもった青年会議所のメンバーは、どのように明らかな社会を創造し、健全なリーダーの育成のためにどのような組織であるべきかを問われることとなるだろう。

現役諸君と現役時代が遠い過去となった我々とは、社会観が多少異なっているかもしれない。しかし自己修練の成果を個々の家庭や事業所、地域社会に還元することは、世代を超えて一貫していると思う。アフターコロナの日本に、青年会議所活動での経験を重ねたリーダーたちが活躍する日を心から待ち望んでいる。